

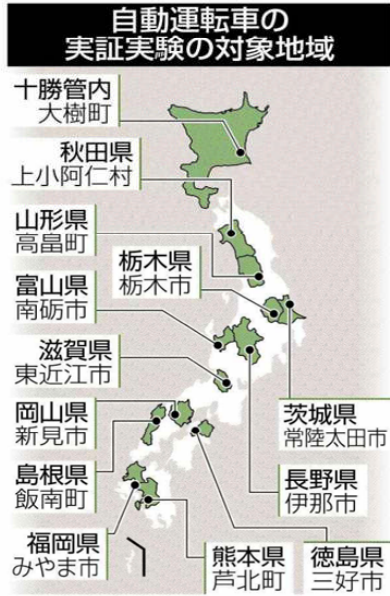


年 組 名前

# 道新でワークシート

## 道の駅など拠点

# 過疎地の足へ 自動運転車実験



公共交通機関が乏しい過疎地の住民の足を確保しようと、国土交通省は「道の駅」などを拠点に、自動運転車の実証実験を9月からスタートする。ドライバーがいない自動運転車に住民を乗せるほか、農産物など荷物を運ぶ実験も行う。政府は2020年までに過疎地での自動運転車の実用化を目指しており、安全性に加えて、車両の導入や運行に関するコストなどを検証する。

実験は9月2〜9日の栃木の車両を使用する。本県栃木市を皮切りに、十勝管内大樹町など全国の計13カ所で今秋中に実施。フランス企業製の小型バスタイプの電気自動車「ロボットシャトル」など計4種類を行う。

栃木市では、道の駅「にしかた」と市役所支所や集落を結び計約1・5キロに仮設する専用道路で、ロボットシャトルが時速10キロで走行する。

## 大樹含め全国13カ所、来月から

**自動運転車** 自動車に搭載したカメラやセンサーなどで周囲の状況を把握し、ドライバーの代わりに人工知能(AI)がハンドルやアクセル、ブレーキを操作して走行する車。政府は2020年までに一部の過疎地や高速道路に限定して、全ての操作を自動化するレベル4、25年までに地域を限定しないレベル5の導入を目指している。

公募で選ばれた住民ら約80人に限り、一度に6人まで乗車できる。農家から道の駅などへの農産物の輸送に活用できるかも検証する予定。拠点となる道の駅は、乗客の待機場所や車両の駐車場として使われる。

また山形県高島町では、自動運転車の専用道として鉄道の廃線跡を活用。長野県伊那市では小型無人機「ドローン」と自動運転車を組み合わせて貨物を配送する構想がある。

過疎地でバス路線が縮小する中、ドライバーが不要な自動運転車は低コストの公共交通機関として期待されている。

実証実験に関する国交省有識者会議メンバーで、全国「道の駅」連絡会アドバイザーの小山源昭さんは「住民の高齢化が進む中山間地域の問題に着目し、解決を目指す点では画期的だ。全国約千カ所にある道の駅で順次、導入が進むと期待したい」と話した。

実験に使用される自動運転車(国交省提供)



2017年8月26日夕刊社会面

①自動運転車の安全性を高めるための取り組みとして適切なものを、ア～エから二つ選びなさい。

- ア ドライバーがいないのでコストが下げられる点
- イ 「道の駅」などを拠点に農産物などの荷物も運ぶ点
- ウ 時速10キロと、普通の自動車の速度より遅くしている点
- エ 一般の道路と別に、専用道路を設けている点

②あなたなら自動運転車をどのように活用したいですか。40字程度で書きなさい。